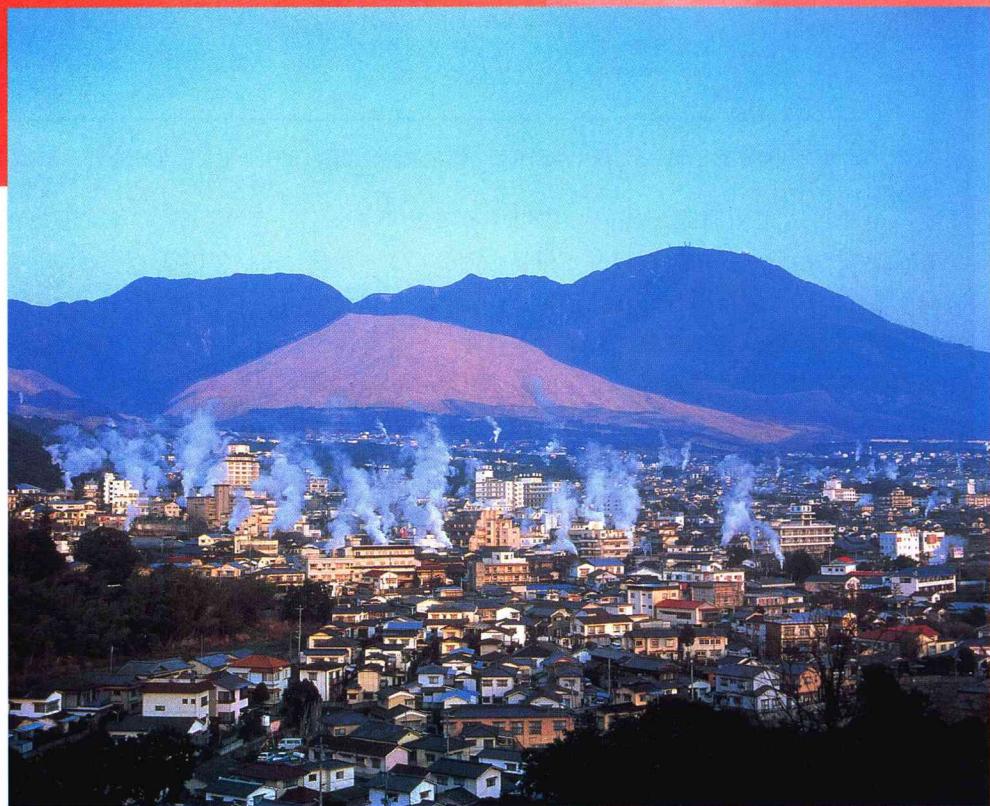


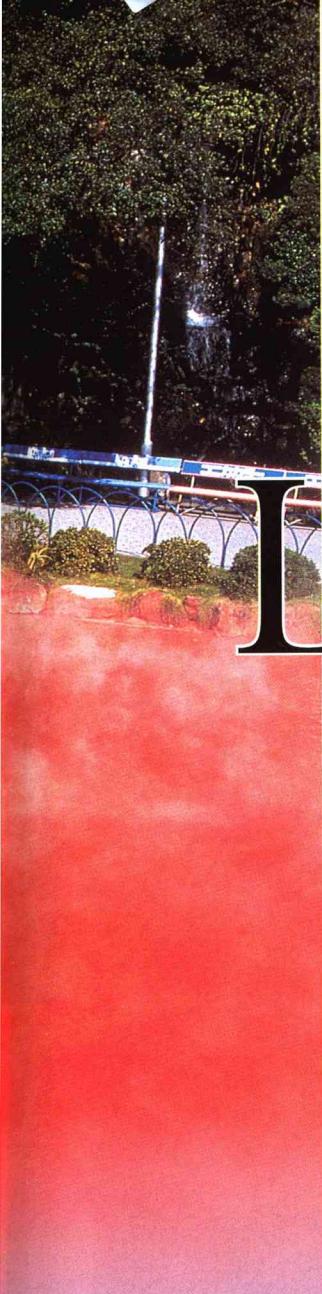
鉄の絶景



「血の池地獄」の様子



鉄輪と書いて「かんなわ」と読む。
地獄の多くは、この鉄輪温泉の周辺にある



湧き出す鉄
大分

Steel Landscape.

日本には数多くの火山があり、その恩恵として、豊富な「温泉」が各地で湧き出している。

私たちの疲れと病を癒す、温泉に含まれる鉄……。

今回は大分県別府市より、

「血の池地獄」の絶景と温泉の不思議にスポットを当てる。

別府温泉に見る、鉄の絶景と、鉄の効能

大分県別府市、地獄めぐり。まずは「血の池地獄」という凄惨なネーミングに多少の気後れを覚えながら場内へ入ると、ひっそりと佇む大きな池を囲んで観光客たちが息を潜めている。風のない日中、池の面は湯煙に覆われていて、赤い灼熱の色彩を確認することはできない。しばし待つ、と、一陣の風。鶴見岳から吹き下ろす突風ともいえる強い風が、池を覆っていた煙をさらっていく。すると、それまで確認できなかった池の様子が眼前に明らかになる。その時、人々ははっと息を飲むと同時に、この景勝地に与えられた「血の池地獄」の呼称が、けっして大袈裟ではないことに気づく。深い赤色はまさに血の池の様相、約1300m²にわたって広がる凄まじい光景…………。万葉集の時代から人々に驚嘆を与えつづけてきた日本最古の天然地獄、それが、この血の池地獄だ。

別府市は、日本でもっとも温泉湧出量の多い地で、旅館數も千を超えるなど、一大温泉郷として知られている。野生の

猿でお馴染みの高崎山やサファリパーク、志高湖、人口砂浜のSPAビーチなど見所は多いが、その中にあって「地獄めぐり」は観光の目玉といえるもので、代表的な8か所の地獄を見物していく観光コースも組まれ、賑わいを見せている。「血の池地獄」はその中でもっとも人気の高い地獄だ。

そもそも「地獄」とは、荒れ果てた地肌から温泉やガスなどを噴き上げている、その荒涼とした光景を指している。全国に地獄と名づけられた場所は数多いが、規模的、内容的にもっとも充実しているのはやはり別府温泉の地獄群だろう。強酸性の泉がコバルト色に澄んで見える「海地獄」、間けつ泉が約10分おきに噴き出す「竜巻地獄」などとともに、この「血の池地獄」が人気だ。酸化鉄を多量に含むため、血で染めたように見える。温度は約93度。もちろん人が漬かる事はできないが、ここから採取される沈殿物が「血の池軟膏」として土産売場にならべられており、あかぎれや水虫に効くのだという。



別府市から別府湾を隔てて眺める大分市。臨海工業地帯に、新日本製鐵の高炉が見える。大分と鉄との関わりも、また深い



別府湾でとれる城下カレイは美味で評判

地下の長い旅を終えて、湧き出る温泉

温泉にはさまざまな泉質があり、そのひとつが「鉄泉」だ。鉄の化合物を多く含み、貧血やリューマチ、更年期障害に効くとされている。「血の池地獄」付近の泉質が、この鉄泉にあたる。鉄泉というからには、色彩的には血の池に見られるような錆色が思い浮かべられる。事実、鉄泉を売り物にする旅館などの浴槽に錆色の湯が張られていることもある。しかし、実はこれは湯が老化して変色しているのであり、鉄泉も源泉では透明で、透明なうちが効能も良好とされる。温泉は生きている。地上に湧き出で後、時間とともに駄目になっていく。だから、たとえば飲泉（飲用の温泉）を瓶に詰めて持ち帰って飲んだとしても、あまり効果は期待できない。また、「湯の花」も温泉の含有物が沈殿したものだから、それを再び湯の中に溶かしたとしても温浴効果以外の効能は、多くを望めない。湧き出たその場所でじっくり漬かる、というのが温泉の基本と言えそうだ。

温泉水のもととなる水の大半は、循環水であるとされている。これは雨になって地下にもぐり、また蒸発して雲となり

降雨となる、といった具合に循環を繰り返している水だ。これが地下で火山熱を吸収し、ガスや周囲の鉱物質が溶け込み、温泉となって湧きだしていく。さらに、ここに処女水というものが混じっていく。これは、地下でマグマが冷却される際に発生する水のこと、地球が誕生して以来、はじめて地上に現われる水だから処女水と呼ばれる。ここにも地下の化学物質が溶け込んでいる。

こうした温泉の成り立ちが解明されてきたのも今世紀に入ってからのこと。しかし、いまもって温泉水を人工的に作り出すことはできない。自然の力のみ作り出すことのできる神秘の水、それが温泉水なのだ。

さまざまな鉱物と同様に、温泉もまた、私たちが地下から得る恵みのひとつだ。そこに溶け込んだ化学物質が、私たちの心と身体を温め、病を癒してくれる。これから冬場は、温泉好きの日本人にとって嬉しい季節だ。温泉宿でゆったりと湯につかりながら、その出で湯が旅してきた地下何千キロの旅を想ってみるのも、なかなかに乙なものかも知れない。